

我が社のSDGs

CASE-1 川上塗装工業：建築塗装

SDGs“狭く深く”の発信基地開設 建築塗装業らしい取組みも

建築塗装業分野で、SDGsへの目標達成に具体的な行動をどう取るべきか。塗料の環境対応製品への代替や廃塗料の削減、経営面では働き方改



SDGs情報発信スタジオでのワークショップ

建築塗装業を営む川上塗装工業（川上秀郎社長）は、本社3階にSDGsの情報発信スタジオ「サステイナブルスタジオモリオカゾノツツキ」を10月1日に開設した。同社は、建築塗装のほか、建築板金大工工事等を手掛け、日本塗装工業会岩手県支部にも所属している。

今回開設したスタジオは、地域ならではの目線から“狭く、深く”的な活動を行っている。SDGsの報を発信し、SDGsの始めた。

同社がSDGsに取り組むきっかけとなったのは、2019年に川上社長がドイツやスイスでのエネルギー・シフトの視察に参加したことによる。日本と欧州の環境に関する市民や国の意識の差に驚き、日本の環境意識の低さに危機感を覚え、帰国したそうだ。これを機に、持続可能な状態で子供達に未来を繋いでいる。そのため、仕事を通じて何ができるのかを模索し始めた。

建築塗装業らしい取組みとしては、「リンクアップウエス」プロジェクトがある。同社は一般戸建てがメインであるため、顧客は一般消費者が中心。そこで、一般家庭からTシャツやタオル等の綿素材の不要な布を回収し、仕分けを行う。その布を盛岡市内の福祉作業所に搬入し、裁断を依頼して、裁断した布を同社が建築工事等で使用する。循環型の活動となり、今では他の建築事業者に1キロ単位で販売もしていると言う。活動を通じSDGsの目標

が思い当たる。「目標11・住み続けられるまちづくりを」を考えれば、建築塗装業 자체がSDGs達成目標につながる業種である。とりわけ地域貢献への役割は強く、これから挙げる事例は、建築塗装業を通じて地域のSDGs活動を推し進めていく取組みである。

同社がSDGsに取り組むきっかけとなったのは、2019年に川上社長がドイツやスイスでのエネルギー・シフトの視察に参加したことによる。日本と欧州の環境に関する市民や国の意識の差に驚き、日本の環境意識の低さに危機感を覚え、帰国したそうだ。これを機に、持続可能な状態で子供達に未来を繋いでいる。そのため、仕事を通じて何ができるのかを模索し始めた。

建築塗装業らしい取組みとしては、「リンクアップウエス」プロジェクトがある。同社は一般戸建てがメインであるため、顧客は一般消費者が中心。そこで、一般家庭からTシャツやタオル等の綿素材の不要な布を回収し、仕分けを行う。その布を盛岡市内の福祉作業所に搬入し、裁断を依頼して、裁断した布を同社が建築工事等で使用する。循環型の活動となり、今では他の建築事業者に1キロ単位で販売もしていると言う。活動を通じSDGsの目標

SDGs対応特集



リンクアップウエス循環イメージ